

## 私と図書館

しもはま しょう  
下濱 祥  
(医学部助教)

「怪盗ルパンシリーズありませんか？」幼少期はよく家の近くの図書館に通い、推理小説や戦国時代の武将伝記などを読み漁っていたことが懐かしく思い出される。歴史が好きであったため、倫理学を選択する理系の同期が多い中、高校の社会の授業では世界史を選択した。歴史人物を扱った映画鑑賞や国内外の美術館巡りは今でも趣味の一つである。

本好きだった自分は、現在は信濃町メディアセンターにお世話になっている。歴史を感じさせる佇まいで内装も美しく落ち着いた雰囲気だ。最新のガイドラインから医学雑誌のバックナンバーまで幅広く取り揃えられており有難い限りである。私は神経内科に所属しているが『Brain and nerve』や『Clinical neuroscience』、『実験医学』といった神経内科で良く用いる雑誌が揃っている。紀伊國屋書店やジュンク堂書店の医学書コーナーで本を探していた時期もあったが、最近はおそらく信濃町メディアセンターで欲しい本を探し、試し読みをしてから購入することが慣例となっている。書籍は2週間、雑誌は1週間まで冊数の制限無く借りることができる贅沢な環境である（何度か1日1冊10円の延滞料を納めたことには目を瞑って頂ければ幸いだ）。

教職員や学生に対するサポートも手厚い。3年目に大学病院で内科研修を行っていた際には、信濃町メディアセンター主催のEndNoteやPubMedの使用方法に関するセミナーも受講し大変勉強になった。現在でもEndNoteの細かい使い方に困った際には、司書の方々に実践的なTipsを大変ご親切にご教示頂いており感謝している。EndNoteは2024年3月で大学による包括的ライセンス契約は終了するが、引き続きTipsを蓄えていきたい。最近では、電子書籍なども購読可能なためiPadなどでPDFファイルを持ち歩くことも増えたが、やはり昔ながらに紙の書籍にマーカーで沢山書き込みながら自らの糧としていく作業は必要と考えている。それ故、直

接書き込む本、手元に置いておきたい本は紙で購入する様にしている（図書館の本にはマーカーで書き込まない様に留意している）。

信濃町メディアセンターの機能にも日々お世話になっている。PubMedやUpToDateは勿論のこと、主要雑誌もリモートアクセスを通じていつでもどこにいても読むことができる。かなりの雑誌の全文を読むことができるため有難い。メディアセンターからアクセスすることのできる「医書.jp」は医学生や研修医の先生にオススメだ。昔は、「Medical Finder」という名前であったのだが、神経内科で良く用いる『Brain and nerve』以外にも『Hospitalist』や『Intensivist』、『循環器ジャーナル』、『呼吸器ジャーナル』を含む多くの雑誌を読むことができる。私は研修医時代、内科の中で進む科を迷っていた際にこれらの雑誌を多く購入していたが、全て無料で読むことができるのは大変有難い。ただし大量ダウンロードは禁止されているため、有り余るモチベーションは喜ばしいがルールの遵守に留意されたい。

昔、上司の先生に伺った話では、利用の少ない電子ジャーナルは、契約の見直し対象になってしまうそうだ。契約料の問題もあると思うが、図書館でも本を借りた際に貸し出しカードに初めて印が付く時がある。一度も借りられていない本も図書館には一定数あるが、一方で本屋などには置いていないまさにその1冊を借りたいといった時に図書館には置いてあるという安心感を考慮すると、図書館の蔵書管理には頭が下がる思いだ。

日頃ご指導頂いている上司の先生方は文学にも精通されていると感じることが多い。「最近の若者は本を読まない」などとも言われ、最近十分量の読書ができていない自分も例外ではない。今一度読書の楽しさを思い返し、医学書以外の本を読む時間も大いに作っていきたい。